

樽前山に登山されるみなさまへ。

登山として必要となる装備を準備し、また以下の装備や事項についての情報は樽前山の特徴を踏まえたものとして、十分注意してください。

装備

登山靴（軽登山靴以上の装備を準備してください。）

小さな軽石がコロコロ転がる登山道は、特に下山時に転倒などの事故が多発しています。

水(最低1リットル以上)

最低1リットルは用意してください。樽前山には水場がありません。

防寒着、雨具(上下セットのもの)

山岳気象は急変します。頻繁に強風が吹き続ける樽前山では、上下セットの雨具で風を避けられるようにしておく必要があります。(強風が吹くため、傘は使えません。)

その他

植物の上に座ったり、乗ったりしないようにしましょう。

ちょっとした踏みつけでも、高山植物は大きなダメージを受けます。

また、高山という厳しい環境のため、その回復には長い長い年月を要します。

トイレは7合目で済ませておきましょう。

7合目より上にはトイレがありません。

長い山行になることもあります。必ずトイレを済ませてから出発してください。

火山性ガスに気をつけて。

濃霧などにより火口原内に迷い込んでしまうと、火山性有毒ガスを吸い込む危険があります。

また、集団登山は自粛ください。

7合目ヒュッテの一般利用はできません。

7合目ヒュッテは遭難や緊急避難時のための避難小屋です。宿舎や売店ではありません。

ゴミは必ず持ち帰ってください。

一般的なゴミはもちろん、大便やティッシュペーパーなどがそのまま山に置き去りにされて、その回収にとっても苦労しています。自分が出したものは全て残さず持ち帰ってください。

樽前山

ダメージを受ける高山植物

強風や濃霧によるホワイトアウト、天候の急変といった山岳気象、火山灰や軽石の積もった脆く崩れやすい土壌、火山性ガスの発生など、北海道という高緯度に位置していることも相まった樽前山の厳しい環境は、一方ではたくさんの高山植物を育てています。また、これらの高山植物のわずか数 cm の深さの根が、樽前山の崩れやすい土壌を押さえ、斜面や登山道の崩壊を防いでくれています。

普段私たちが生活している環境とは違った厳しい山の世界では、一度失われた植物が回復するまでに長い長い年月がかかります。(樽前山では 50 年前に失われた植生が、いまだに回復していません。)

このように脆弱な環境で必死に生きている高山植物ですが、次のような行為が残念ながら頻繁に見られます。

- ・他の登山者とのすれ違いの際などに高山植物を踏む。
- ・高山植物の上に座って休憩をとる。
- ・花を観察したり写真を撮ろうと、他の高山植物を踏み荒らす。 など・・・

登山時には、山の環境に負荷を与えない配慮をお願いします。

毎年発生する事故(「ちょっといけるところまで。」が事故の元)

樽前山登山を安易に考えている方は多く、それ故、最低限必要な装備も不十分な「軽装登山者」が後を絶ちません。

雲より高いところに出て、日常とは異なる山岳気象下の環境となる樽前山は、頻繁に発生する尾根での強風、海霧が入ってきた場合の完全なホワイトアウト、そしてホワイトアウトして方向を失った際に火口に近づいてしまう恐れ、また、細かな軽石などが多数転がっているため特に下山時に転倒しやすい登山道、といった特徴から、登山と山の特長に関する知識や情報、装備が必要となる山です。低地でのウォーキングやハイキングのような気分ではなく、登山に必要な心構えと装備を準備した上で、樽前山登山を安全にお楽しみください。

樽前山で実際に発生した事故の例(一部)

- ・2009.06. 外輪山北側で濃霧のため登山者2名が方向を失う。山岳会員が保護し下山。
- ・2009.06. 男性が東山コース途中で体力が消耗し動けなくなる。
- ・2009.07. 男性が友人とはぐれ滑落。消防・警察・山岳会会員が出動。自力下山中を保護。
- ・2009.08 東ピーク付近で男性が転倒し、右足首を骨折。防災ヘリで救助。
- ・2009.10. 東ピーク下で登山者3名が強風のため立ち往生。山岳会員が保護し下山。
- ・2009.10 外輪山上で登山者4名が強風のため立ち往生。国立公園レンジャーらが保護し、下山。
- ・2010.06. 展望台付近で男性が転倒。陸上自衛隊が救助。
- ・2010.08. 男性が滑落及び方向を失う。警察・山岳会会員が出動し、道警ヘリで救助。
- ・2010.08. 男性が熱中症になり、自衛隊員が保護し、下山。